

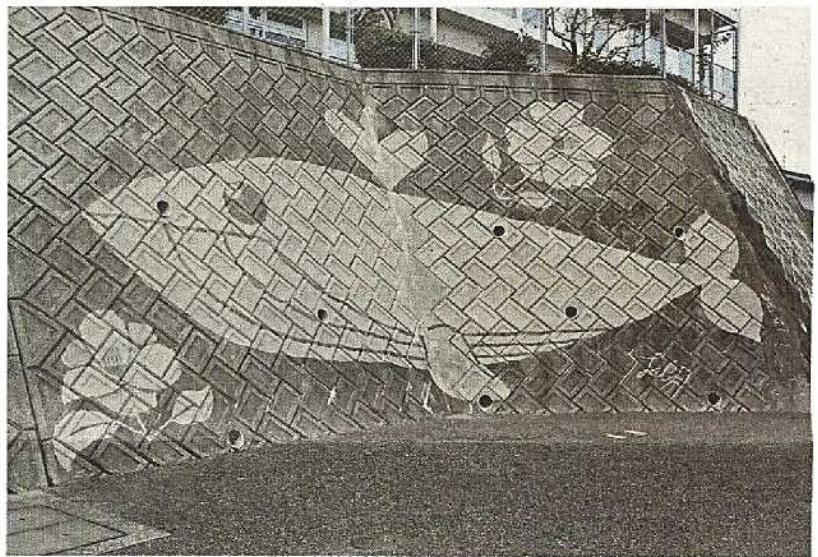
下関各所に巨大壁画 恐竜

塗装会社代表が描く

クジラ

下関市金比羅町の国道191号沿いのコンクリート製の壁に巨大なクジラが描かれ、街歩きを楽しむ人やドライブの間で話題になっている。海岸で日本最古の恐竜の足跡が見つかった同市吉母地区には大きな恐竜の絵が登場した。現在、市内計10カ所に同様の絵があり、市の新しい人気スポットになりそうだ。

描いたのは、塗装会社「社アトリエミミック」の代表、山内拓朗さん(43)。山内さんは、仕事の傍ら、市内各地でペンキを使わず、高圧



金比羅町のクジラやツバキ

洗浄機で絵を描くエコアート活動を続けてきた。こけなどで汚れた擁壁に高圧の水を噴射して洗い落とすことで、汚れた部分ときれいになった部分のコントラストでクジラや恐竜を浮かび上がらせる。

山内さんは、新型コロナウイルスの感染が拡大し、社会が暗くなる中で、市民に少しでも明るくなってもらうと、壁画アートの活動を始めたという。クジラは縦約8メートル、横約12メートルで、クジラが潮を吹いている様子を描いた。下関駅近くの医療法人社団・社会福祉法



吉母地区の恐竜

人「松涛会」が運営する複合型福祉施設「フロイデ金比羅」に隣接する壁に描かれており、同会の斎藤妙子理

事長(87)は、「市民をほっこりさせてくれる。これからも活動を応援したい」と話し、山内さんの地域貢献に対して感謝状を贈っている。

また、吉母地区の本州最西端の岬「毘沙ノ鼻」につながる市道には、縦約16メートル、幅約25メートルの恐竜を2日間かけて描いた。山内さんは「町を明るくしたいという思いでやっています。意味がないのではないかと思う時もあるが、町の皆さんに喜んでいただきた。活動してよかった」と語った。

【大坪菜々美】